

12

原子力施設の運転状況

12-06

放射性同位元素使用事業所

12-06-01

放射性同位元素取扱施設の事故・故障・トラブル

12-06-01-02

昭和56年度放射性同位元素等取扱施設における事故・故障

<概要>

昭和56年4月以降、昭和57年3月末までに発生した放射性同位元素に係る事故は、[被ばく](#)事故1件であった。この事故による周辺公衆への影響はなかった。

<更新年月>

1998年05月 （本データは原則として更新対象外とします。）

<本文>

昭和56年4月以降、昭和57年3月末までに発生した放射性同位元素に係る事故等（放射線障害防止法令に基づき科学技術庁（現文部科学省）に報告のあったもの）は被ばく事故1件で、その概要は次のとおりである。また、周辺公衆への影響はなかった。

（1）昭和56年5月国立がんセンターにおいて[放射線治療](#)に先だち体腔内照射装置から模擬線源を取り出すべきところ、誤って本線源〔[コバルト60](#)、1キュリー（37GBq）〕を取り出し、放射線作業従事者等17名がこれにより被ばくした。そのうち、最大許容被ばく線量を超えた者は1名で、その[全身被ばく線量](#)は約11レム（0.11グレイ）局所被ばく線量は約200～1,350レム（2～13.5グレイ）と推定されている。関係者の健康診断を行ったところ異常は認められなかった。

<関連タイトル>

[放射性同位元素等取扱事業所における事故等の年度推移（1998年度まで）（03-05-04-01）](#)

[放射性同位元素（08-01-03-03）](#)

[放射性同位元素等取扱施設からの放射線（能）（09-01-02-07）](#)

<参考文献>

（1）原子力安全委員会（編）：「昭和56、57年度の放射性同位元素取扱施設の事故・故障（放射線障害防止法に基づき報告があったもの）」、昭和58年度版 原子力安全白書、436、668、（1983）